

処方番号：117

処方名：参苓白朮散（じんれいびやくじゅつさん）

処方構成：

人参 3、山薬 1.5-3、白朮 3-4、茯苓 3-4、薏苡仁 5-8、扁豆 2-4、蓮肉 2-4、桔梗 2-2.5、縮砂 2、甘草 1.5

用法・用量：

（1）散：1回 1.5-2g 1日3回

（2）湯

しぱり：

体力虚弱で胃腸が弱く、やせて顔色が悪く、食欲がなく下痢が続く傾向があるものの次の諸症

効能・効果：

食欲不振、慢性下痢、病後の体力低下、疲労倦怠、消化不良、慢性胃腸炎

原典：太平惠民和劑局方

出典：

解説：

四君子湯の去加方である。四君子湯と用法は変わらず、胃腸が弱く食欲不振で嘔吐下痢の症状があるものに用いるが、発熱、悪寒のないことが大切である。散は温湯、又は玄米の重湯、又は大棗の煎汁で服用する。

本方には「じんれいびやくじゅつさん(矢数道明)」「じんりょうびやくじゅつさん(細野史郎)」の二通りの読み方があるが、三学会の同意により「じんれいびやくじゅつさん」に統一した。

117.参苓白朮散

参考文献名	人 参	山 薬	薯 蕷	白 朮	朮	茯 苓	薏 苡 仁	扁 豆	白 扁 豆	蓮 肉	桔 梗	縮 砂	砂 仁	甘 草	用法・用量
処方分量集	1.5	1.2	-	1.5	-	1.5	0.8	1	-	0.8	0.8	0.8	-	0.8	*1
診療の実際 注1	3	3	-	-	4	4	8	3	-	3	2.5	2	-	1.5	*2
診療医典 注2	3	3	-	-	4	4	8	3	-	3	2.5	2	-	1.5	*3
症候別治療	3	1.5	-	3	-	3	5	-	4	4	2	2	-	1.5	
処方解説 注3	3	3	-	4	-	4	5	2	-	2	2	-	2	1.5	*4
後世要方解説	3	3	-	4	-	4	5	-	2	2	2	-	2	1.5	*5
漢方百話(続)	3	3	-	4	-	4	5	-	2	2	2	-	2	1.5	*6
漢方百話(続々)	1.5	-	1.2	1.5	-	1.5	0.8	1	-	0.8	0.8	0.8	-	0.8	*7
応用の実際 注4	3	1.5	-	3	-	3	5	4	-	4	2	2	-	1.5	
明解処方	3	3	-	4	-	4	8	3	-	3	2.5	2	-	1.5	*10
漢方処方集	3	2	-	2	-	2	1	-	1	1	1	1	-	2	*8
漢方処方便法	3	4	-	3	-	4	6	-	2	4	2	2	-	2	*9

*1 末とし毎服2gを温湯または玄米の重湯にて服す。1日3回。

*2 以上細末とし1日3回2.5gずつ服用。

*3 以上細末とし1日3回2gずつ服用。

*4 末とし毎服2大棗の煎汁、または玄米の重湯にて服する。煎用してもよい。

*5 末とし毎服1.5-2、1日3服、棗湯または温湯で服す。あるいは粳米飲(玄米の重湯)で服してもよい。あるいは煎用するのもよい。なお略解説の項では、末となし毎服2-3棗湯または温湯、または玄米の重湯にて服す。やむを得ざれば煎用す。

*6 末を2g宛2回、空腹時に微温湯にほんの少し食塩を入れて飲ませる。

*7 左末として毎服2を温湯または玄米の重湯にて服す。1日3回。

*8 左の割合で混合散剤とし1日2-3を棗湯で服用。

*9 常煎法。

*10 以上を細末とし、1日2.5宛1日3回服用する。

〔注1〕 平素胃腸虚弱にして食が進まず、泄瀉しやすいもの。また熱がなくて疲労しやすく食欲不振のもの、および大病後に疲労がはなはだしく食欲欠損のもの等に用いられる。

〔注2〕 平素胃腸虚弱にして食が進まず、泄瀉しやすいもの。また熱がなくて疲労しやすく食欲不振のものおよび大病後に疲労がはなはだしく食欲欠損のものなどに用いられる。

〔注3〕 腸胃虚弱で、少しのことにも下痢しやすく、食欲なく、脈腹ともに軟弱で、貧血し、疲れやすく、冷え症である。水瀉性下痢のものが多く、1日2-3回ほど下痢し、食事が胃に入るとすぐ下痢するというものもある。すこしく腹満、腹鳴りがあり、ガスがたまるが、腹痛はほとんど伴わない。

勿誤方函口訣には、「此方ハ脾胃ノ弱キ人、食事進マズ、泄瀉シ易キモノヲ治ス。故ニ半井家(室町時代よりの宮廷医)ニテハ平素脾胃ノ至ツテ虚弱ナル人、動モスレバ腹ノ下ルト云フモノニ常用スト云フ」とあり、医方口訣集には、「予常ニ之ヲ用フル口訣三ツアリ。脾胃虚弱ノ人、別ニ発熱悪寒ノ候ナク、但ダ勞倦不食ノ証ヲ見ハスモノ、之ヲ与フ其ノ一ナリ。大病ノ後脾胃ヲ保養セント欲スルノ時、之ヲ与フ其ノ二ナリ。脾胃虚シテ常ニ瀉シ易キ者ニ之ヲ投ズ、其ノ三ナリ。半井家日用ノ薬ナリ」とある。

〔注4〕 体質も胃腸も虚弱で食欲がなくて下痢するもの、寝ているほどではないが身体がだるく1日に2-3回下痢するもの、慢性の下痢で真武湯を用いても効のないときなど。

処方番号：118

処方名：清湿化痰湯（せいしつけたんとう）

処方構成：

天南星 3、黄芩 3、生姜 1（ヒネショウガを使用する場合 3）、半夏 4、茯苓 4、蒼朮 4（白朮も可）、
陳皮 2-3、羌活 1.5、白芷 1.5、白芥子 1.5、甘草 1-1.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度あるいはそれ以下で、背中に冷感があり痛みがあるものの次の諸症

効能・効果：

神経痛、関節痛、筋肉痛

原典：寿世保元

出典：勿誤薬室方函

解説：

『寿世保元』には「背が一点氷のように冷えて指先で玉をころがすようになめらかに動く脈のもの」を対象に用いる処方としてあるが、必ずしもこの特徴にこだわることはないという。

この方は元来、湿（水）が原因で体のあちこちが痛むものに用いる薬方で胸部の痛みに用いるのもこの応用である。肋間神経痛をはじめ、これに類する胸や背部の疼痛に用いる。また咳をすると脇の下が引きつり、痛んだり痰が胸につかえて苦しい症状もこの薬方の目標であるが、痛みが胸部ばかりでなく、あちこちに移動するような症状にも用いる。

118.清湿化痰湯

参考文献名		天南星	黄芩	生姜	乾生姜	半夏	茯苓	蒼朮	陳皮	羌活	白芷	白芥子	甘草	竹瀝
診療医典	注1	3	3	3	-	4	4	4	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-
治療の実際	注2	3	3	3	-	4	4	4	2	1.5	1.5	1.5	1.5	-
処方解説	注3	3	3	-	1	4	4	4	3	1.5	1.5	1.5	1	-
応用の実際	注4	3	3	3	-	4	4	4	2	1.5	1.5	1.5	1.5	-
基礎と診療		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
処方分量集		3	3	3	-	4	4	4	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-
漢方処方集	注5	3	3	1 ^{*1}	-	3	3	3	3	3	3	3	1.5	1 ^{*2}

*1 生姜汁

*2 生姜汁、竹瀝は除いても可

〔注1〕 水毒が原因の肋間神経痛に用いる。胃アトニー症、胃下垂症などのあるものに用いることが多い。乳腫のあるもの、感冒。

〔注2〕 色が白く水ぶとりの人にみられる肩のこり、胸の痛みに用いる。首すじなどに梅干大のこりのあるようなものによい。

〔注3〕 痰が固く吐き難いものの胸の痛み、諸筋肉痛、背中冷えを治す。肋間神経痛、筋肉リウマチス、リンパ腺腫、肩こりなどに応用する。

〔注4〕 胃アトニー症。

〔注5〕 神経痛、リウマチス、関節炎、肋間神経痛、背痛、四肢の麻痺知覚喪失、脈が沈滑のもの。

処方番号：119

処方名：清上蠲痛湯（驅風蝕痛湯）

（せいじょうけんつうとう／くふうしょくつうとう）

処方構成：

麦門冬 2.5-6、黄芩 3-5、羌活 2.5-3、独活 2.5-3、防風 2.5-3、蒼朮 2.5-3（白朮も可）、当帰 2.5-3、川芎 2.5-3、白芷 2.5-3、蔓荊子 1.5-2、細辛 1、甘草 1、藁本 1.5、菊花 1.5-2、生姜 0.6-1（ヒネシヨウガを使用する場合 2.5-3）（藁本、菊花、生姜はなくても可）

用法・用量：

湯

しばり：

体力に関わらず、慢性化した痛みのあるものの次の諸症

効能・効果：

顔面痛、頭痛

原典：寿世保元

出典：

解説：

『寿世保元』に記載された処方である。『古今方彙』に「一切の頭痛を治すの主方」と記載されている。一切の頭痛と記載されるとかえって目標がはっきりしなくなるが、日常臨床では三叉神経痛、大後頭神経痛、頭部の帯状疱疹後遺症による頭部神経痛などに応用して効果を認めている。特に三叉神経第一枝の神経痛には著効を奏することが多い。感冒に伴う頭痛には葛根湯、葛根湯加川芎辛夷、川芎茶調散などが適応する機会が多く、片頭痛発作には呉茱萸湯、五苓散、川芎茶調散などが効果的で、高血圧症に伴う肩凝り頭痛には釣藤散、葛根湯などを用いるのを原則としている。諸種の処方を用いてすっきり治らない頭痛に対して本処方が効果を認める時がある。色々処方を用いても治らない頭痛に一度は試す価値のある処方である。

119.清上蠲痛湯

参考文献名		麦門冬	黄芩	羌活	独活	防風	蒼朮	白朮	当帰	川芎	白芷
診療の実際	注1	6	4	3	3	3	3		3	3	3
診療医典 清上蠲痛湯	注2	5	4	3	3	3		3	3	3	3
診療医典 驅風触痛湯		5	4	3	3	3		3	3	3	3
処方解説	注3	2.5	3	2.5	2.5	2.5	2.5		2.5	2.5	2.5
民間薬百科	注4	3	5	3	3	3	朮3		3	3	3
処方分量集		3	3.5	2.5	2.5	2.5	3(朮)		2.5	2.5	2.5

参考文献名		蔓荊子	藁本	細辛	甘草	菊花	乾生姜
診療の実際	注1	2	1.5	1	1		
診療医典 清上蠲痛湯	注2	2		1	1	2	
診療医典 驅風触痛湯		2	1.5	1	1		
処方解説	注3	1.5		1	1	1.5	1
民間薬百科	注4	1.5		1	1	1.5	生姜1.5
処方分量集		1.5		1	1	1.5	生姜2.5

注1 一般の頭痛，三叉神経痛

注2 頑固な三叉神経痛

注3 一切の頭痛を治する主方なり，慢性頭痛，諸頭痛，三叉神経痛，上顎癌による痛み。

注4 頭部，顔面の疼痛，なお，常習頭痛，三叉神経痛にも応用される。

処方番号：120

処方名：清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）

処方構成：

荊芥 1-1.5、黄連 1-1.5、薄荷葉 1-1.5、枳実 1-1.5、甘草 1-1.5、山梔子 1.5-3、川芎 2-3、黄芩 2-3、連翹 2-3、白芷 2-3、桔梗 2-3、防風 2-3

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度あるいはそれ以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものの次の諸症

効能・効果：

にきび、顔面・頭部の湿疹、酒皰鼻（赤鼻）

原典：万病回春

出典：

解説：

横隔膜より上部、とくに顔面に鬱滞した熱を発散清解さすもので、荊防敗毒散では軽きにすぎ、防風通聖散では強きに過ぎる場合に用いる。

黄連、黄芩、山梔子はいずれも尿の減少を伴う体熱を清解し、白芷、桔梗、川芎、防風、荊芥などはみな横隔膜から上半身、顔面に作用して、驅風、解毒、排毒の能があり、連翹は枳実とともに化膿毒を消散させる。

本方は上の目標にしたがい、青年男女に発する充血性の面疱（にきび）、頭部湿疹、目の充血、酒皰鼻（赤鼻）などに応用される。

120.清上防風湯

参考文献名		荊 芥	黄 連	薄 荷	枳 実	甘 草	梔 子	川 芎	黄 芩	連 翹	白 芷	桔 梗	防 風
診療医典	注1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	3	3	3	3	3	3	3
治療の実際		1	1	1	1.5	1.5	2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
処方解説	注2	1.5	1.5	1	1	1	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
応用の実際		1	1	1	1.5	1.5	2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
処方分量集		1	1	1	1	1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
漢方処方集	注3	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1.5	2	2	2.5	2.5	2.5	3.5

〔注1〕 顔面、頸部の発疹で赤みを帯び、あるいは熱性のあるもの。にきび、頭部の湿疹、目の充血、結膜炎、顔面白癬(はたけ)、酒皰鼻(赤鼻)などに応用される。

〔注2〕 体力が充実している人の頭部に生じた化膿性の腫物。癰、疔、皮膚の発疹などに用いる。その他、中耳炎、歯齦炎、歯根膜炎などにも用いる。

〔注3〕 顔面に生じた充血性のにきび、フルンケル、あるいは眼の充血を清解さすに用う。

処方番号：121

処方名：清暑益気湯（せいしょえっきとう）

処方構成：

人參 3-3.5、白朮 3-3.5（蒼朮も可）、麦門冬 3-3.5、当帰 3、黄耆 3、陳皮 2-3、五味子 1-2、黄柏 1-2、甘草 1-2

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度以下から虚弱で、疲れやすく、食欲不振、ときに口渇などがあるものの次の諸症

効能・効果：

暑気あたり、暑さによる食欲不振・下痢、夏やせ、全身倦怠、慢性疾患による体力低下・食欲不振

原典：医学六要

出典：

解説：

補中益気湯の変方で、その名の通り暑気を清め気を益す作用がある。

121.清暑益氣湯

参考文献名	人 参	白 朮	麦 門 冬	当 帰	黄 耆	五 味 子	陳 皮	甘 草	黄 柏
処方分量集	3.5	3.5	3.5	3	3	2	2	2	2
診療の実際	3	3	3	3	3	2	2	2	2
診療医典	3	3	3	3	3	2	2	-	2
症候別治療	3	3	3	3	3	2	2	2	2
処方解説	注3	3.5	3.5	3	3	1	3	1	1
後世要方解説	注4	3.5	3.5	3.5	3	3	3	1.5	1.5
漢方百話		-	-	-	-	-	-	-	-
応用の実際	注5	3	3	3	3	2	2	2	2
明解処方	注6	3.5	3.5	3.5	3	3	1.5	3	1.5
漢方あれこれ		3	3	3	3	2	2	2	2
実用漢方療法		3.5	3.5	3.5	3	3	2	2	2
入門漢方医学		-	-	-	-	-	-	-	-

〔注1〕 食事のあとで、だるくなって、ねむくなるものは胃腸の弱い人である。本方を用いる目標となる。

〔注2〕 この方は俗にいう“夏やみ”の薬で夏になると食が減じ、水っぽいものをほしがり、手足がだるく、足の裏がほてり、時に下痢したり、大便がゆるくなったりするものを目標として用いる。

〔注3〕 夏やせ、夏まけの専剤。

〔注4〕 平常虚弱の人、夏の暑熱に感じて羸瘦、倦怠、あるいは下痢し、あるいは呼吸苦しく、四肢熱して倦怠はなはだしく、食欲振わず、自汗の出るものによい。虚証の人に持薬として用い体力を強める。老人などの長期服用には内外傷弁の方を用いる。

〔注5〕 大便は軟便で、からだのだるく、脚膝の力がぬけて気ぶしょうになり、食がすすまず、次第に痩せて、俗にいう夏瘦せ。

〔注6〕 主に夏瘦せして食欲なく倦怠感のはなはだしいものに用いる。

参考：医学六要には「長夏湿熱大勝、人これに感じ、四肢困倦、身熱心煩、小便少なく、大便溏、或は渴し、或は渴せず、飲食を思わず、自汗するを治す。」とある。

東醫宝鑑には、同名で内外傷弁の方が記載されている。すなわち、蒼朮一錢半、黄耆升麻各一錢、人參、白朮、陳皮、神麴、沢瀉各五分、酒黄柏、当帰、青皮、麦門冬、乾葛、甘草各三分、五味子九粒の処方、湿熱にあたり四肢困倦し、精神短少、動作が鈍り、小便が黄色く、大便が少なく、身熱し煩渴で下痢し食欲がなく自汗する症。

処方番号：122 処方名：清心蓮子飲（せいしんれんしいん）

処方構成：

蓮肉 4、麦門冬 4、茯苓 4、人参 3、車前子 3、黄芩 3、黄耆 2、地骨皮 2、甘草 1.5-2

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度あるいはそれ以下で、胃腸が弱く、全身倦怠感があり、口や舌が乾き、尿が出しづるものの次の諸症

効能・効果：

残尿感、頻尿、排尿痛、尿のにごり、排尿困難、帯下（こしけ）

原典：太平惠民和劑局方

出典：

解説：

本方は心と腎の熱を冷まし、脾と肺の虚を補うのが目的である。すなわち、精神過労により心と肺を損じ、酒色におぼれ不摂により脾と腎をやぶり、発熱、炎症、充血などを生じた場合に用いてよい。

目標としては疲れると尿が混濁する慢性の淋疾や腎臓や膀胱炎、また排尿に力なく尿が後に残る気味のあるものに用いる。

また米のとぎ汁のような帯下（こしけ）のある婦人、糖尿病で油のような尿の出るもの、腎臓結核で尿が濁り熱や炎症、血尿のあるもの、あるいは遺精、性的神経衰弱、口内炎のあるものなどにも応用される。

なお、『和劑局方』には使用漢薬中、蓮肉、麦門冬は去心、黄耆は蜜炙、甘草は炙甘草を使用すべきものとしてある。

122.清心蓮子飲

参考文献名		蓮肉	麦門冬	茯苓	人参	車前子	黄芩	黄耆	地骨皮	甘草	用法・用量
診療医典	注1	4	4	4	3	3	3	2	2	1.5	
治療の実際	注2	4	4	4	3	3	3	2	2	1.5	*1
処方解説	注3	4	4	4	3	3	3	2	2	2	*2
応用の実際	注4	4	4	4	3	3	3	2	2	1.5	
処方分量集		4	4	4	3	3	3	2	2	1.5	
漢方処方集	注5	5	3	4	5	3	3	4	3	1	
漢方処方の構成と応用		4	4	4	3	3	3	2	2	1.5	

*1 冷服

*2 この方薬は煎じてから滓を去り、水に沈め冷やし、空腹時や食前に冷服するものである。熱症状の少ないときは温服してもよい。

〔注1〕 虚弱な人、ことに胃腸が弱く疲れるとすぐに尿が混濁したり、排尿時に痛みを訴えたり、尿が残るような不快感のあるものの、慢性膀胱炎、腎・膀胱結核、慢性腎盂炎、性的神経衰弱、遺精、婦人の帯下。

〔注2〕 虚弱な人の夢精、遺精または尿道の不快感、尿が白く濁ったりして安眠の出来ないものなどに用いる。

〔注3〕 尿意頻数や尿混濁、遺精や遺尿、残尿感のあるもの、あるいは婦人の帯下の大量下るものに用いる。陰痿症、膀胱炎、慢性腎盂炎。

あるいは糖尿病で神経症があり、体力衰えて食欲も少なく、全身倦怠感を訴えるものに用いる。

〔注4〕 無菌性の尿道炎、前立腺肥大。

〔注5〕 性的神経衰弱、夢精、遺精、腎臓炎、膀胱炎、糖尿病。

処方番号：123

処方名：清熱補氣湯（せいねつほきとう）

処方構成：

人参 3、白朮 3-4、茯苓 3-4、当帰 3、芍薬 2-3、升麻 0.5-3、五味子 1、玄参 1-2、甘草 1

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度以下で胃腸が弱いものの次の諸症

効能・効果：

口内炎、口腔や舌の荒れ・痛み、口のかわき

原典：証治準繩

出典：

解説：

虚証で繰り返す口内炎が目標。舌の乳頭が消失し、一皮剥いたような舌状（鏡面舌）が特徴である。臨床ではベーチェット病の口内炎を繰り返すときに適用の機会が多い。シェーグレン症候群の口内乾燥にも応用の機会がある。

123.清熱補氣湯

参考文献名		人 参	朮	白 朮	茯苓	当 帰	芍 薬	升 麻	五 味 子	麦 門 冬	玄 参	甘 草	用法・用量
漢方診療医典	注1	3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
漢方処方応用の実際	注2	3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
臨床応用漢方処方解説	注3	3	-	3.5	3.5	3	2	0.5	1	3	2	1	
新版漢方医学	注4	3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
症候による漢方治療の実際		3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
漢方と民間薬百科		3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
漢方治療百話第三集		3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
漢方治療百話題四集		3	-	4	4	3	2	0.5	1	3	1	1	
漢方後世要方解説	注5	3	-	3.5	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
経験・漢方処方分量集		3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	
改訂新版漢方処方集		3	-	3	3	3	3	3	1	3	1	1	
現代漢方入門		3	-	3.5	3.5	3	3	0.5	1	3	2	1	
1000万人の漢方診断と治療の実際		3	3.5	-	3.5	3	3	1	1	3	1	1	

注1

本方は慢性胃炎のある虚証の人が、胃の虚熱のため舌が爛れ、舌乳頭が消失して、一皮剥いだようになり、口中不快を覚えるものに用いる。口舌無皮状というのが目標である。

注2

平素胃腸が虚弱で、地黄剤をのむとすぐに食欲がなくなったり、下痢ぎみになったりする人の口腔、舌の荒れ、痛みに用いる。

注3

脾胃の虚を補う剤と、血を潤し、燥を潤す剤とで構成されている。すなわち人参・白朮・茯苓・甘草は四君子湯で、脾胃を補うものである。当帰と芍薬は血虚を補い、五味子・麦門冬・玄参は津液乾燥を潤すものである。升麻は咽口中の熱をさまし、かつ諸薬を引いて上昇させ、上部に作用させる働きがある。脾胃の虚を補う剤と、血を潤し、燥を潤す剤とで構成されている。すなわち人参・白朮・茯苓・甘草は四君子湯で、脾胃を補うものである。当帰と芍薬は血虚を補い、五味子・麦門冬・玄参は津液乾燥を潤すものである。升麻は咽口中の熱をさまし、かつ諸薬を引いて上昇させ、上部に作用させる働きがある。

注4

虚証で衰弱し、舌の乳頭が消失して無皮状となり、飲食の味がよくわからなくなったものによい

注5

此方は胃の気衰えて虚熱となり、舌乳頭消失して、一皮剥ぎたる如くなり、或は皸裂を生じ、或は麻痺感あり、或は痛みを訴え、口渴するものによい。産後口舌糜爛して、大黄、芒硝、黄連、黄ゴンを等実熱の剤を用いて治せざるものに使用して奏効すること顕著である。涼隔散の裏の薬方で、脈腹共に虚軟、虚証のものによい。

処方番号：124

処方名：清熱補血湯（せいねつほけつとう）

処方構成：

当帰 3、川芎 3、芍薬 3、地黄 3、玄参 1.5、知母 1.5、五味子 1.5、黄柏 1.5、麦門冬 3、柴胡 1.5、牡丹皮 1.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度以下で胃腸は弱くなく、貧血気味で皮膚が乾燥しているものの次の諸症

効能・効果：

口内炎、口腔や舌の荒れ・痛み、口のかわき

原典：証治準繩

出典：

解説：

虚証で慢性的に繰り返す口内炎に適用するが、舌状は清熱補気湯適応症の様な鏡面舌ではなく、血色がない舌に薄い白苔を認めることが多い。臨床ではベーチェット病に適応機会が多い。

124.清熱補血湯

参考文献名		当 帰	川 芎	芍 薬	熟 地 黄	地 黄	玄 参	知 母	五 味 子	黄 柏	麦 門 冬	柴 胡	牡 丹 皮	用法・用量
漢方診療医典	注1	3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	3	1.5	1.5	
漢方処方応用の実際	注2	3	3	3	-	3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
臨床応用漢方処方解説	注3	3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
新版漢方医学		3	3	3	-	3	1.5	1.5	1.5	1.5	3	1.5	1.5	
症候による漢方治療の実際		3	3	3	-	3	1.5	1.5	1.5	1.5	3	1.5	1.5	
漢方と民間薬百科		3	3	3	-	3	1.5	1.5	1.5	1.5	3	1.5	1.5	
漢方治療百話第一集		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
漢方治療百話第二集		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
漢方治療百話第三集		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
漢方後世要方解説		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
改定新版漢方処方分量集		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
現代漢方入門		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
1000万人の漢方診断と治療の実際		3	3	3	3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	

注1

本方は血虚を補い、血を潤し、血中の燥火を解するもので、当帰、芍薬、川芎、熟地は四物湯で、血虚を補い血燥を治す。五味子、麦門冬は津液を生じ、乾燥を潤し、玄参、知母、黄柏はとくに胃中の熱を解し、玄参はとくに口内や咽喉の熱を治し、慈潤させる効がある。柴胡は肝の熱をさまし、牡丹皮は血中の熱を清ます。

注2

重症の口内潰瘍で、涼隔散、黄連解毒湯などが効果のないときによい。重症の口内潰瘍で、涼隔散、黄連解毒湯などが効果のないときによい。

注3

本方は血虚を補い、血を潤して、血中の燥火を解するもので、当帰・芍薬・川芎・熟地はすなわち四物湯で、血虚を補い、血燥を潤すものである。五味子、麦門冬は津液を生じ、乾燥を潤し、玄参・知母・黄柏はとくに腎中の熱を解し、玄参はとくに口内や咽喉の熱を解し、滋潤させる効がある。柴胡は肝の熱をさまし、牡丹皮は血中の熱を清涼させるものである。

処方番号：125

処方名：清肺湯（せいはいとう）

処方構成：

黄芩 2、桔梗 2、桑白皮 2、杏仁 2、山梔子 2、天門冬 2、貝母 2、陳皮 2、大棗 2、竹茹 2、茯苓 3、
当帰 3、麦門冬 3、五味子 0.5-2、生姜 1、甘草 1-1.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度あるいはそれ以下で、せきが続き、たんが多くて切れにくいものの次の諸症

効能・効果：

たんの多く出るせき、気管支炎

原典：万病回春

出典：

解説：

咳込みがひどく、大量の痰が出る。痰はなかなか切れにくく、痰が出るまで咳が続くものを目標とする。気管支拡張症にも応用できる。

125.清肺湯

参考文献名	黄芩	桔梗	桑白皮	桑白	杏仁	梔子	山梔	天門冬	天門	貝母	陳皮	烏梅
処方分量集	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
診療の実際	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
診療医典	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
症候別治療	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
処方解説	2	2	2	-	2	-	2	2	-	2	2	-
後世要方解説	2	2	2	-	2	0	-	2	-	2	2	-
漢方百話	2.5	2.5	2.5	-	2.5	-	2.5	2.5	-	2.5	2.5	-
続・漢方百話	2	2	-	2	2	2	-	-	2	2	2	-
続・続漢方治療百話	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
応用の実際	2	2	2	-	2	2	-	2	-	-	-	2
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方処方集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方医学	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-
精撰百八方	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	2	-
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成人病の漢方療法	2	2	2	-	2	2	-	2	-	2	2	-

参考文献名	大棗	竹茹	茯苓	当帰	麦門冬	麦門	五味子	五味	生姜	乾姜	乾生姜	甘草
処方分量集	2	2	3	3	3	-	1	-	-	1	-	1
診療の実際	2	2	3	3	3	-	1.5	-	1.5	-	-	1
診療医典	2	2	3	3	3	-	0.5	-	0.5	-	-	1
症候別治療	2	2	3	3	3	-	1.5	-	1.5	-	-	1
処方解説	2	2	3	3	3	-	1	-	-	-	1	1
後世要方解説	2	2	3	3	3	-	1	-	1	-	-	1
漢方百話	2.5	2.5	3	3	3	-	1	-	1	-	-	1
続・漢方百話	2	2	3	3	-	3	-	1	-	-	1	1
続・続漢方治療百話	2	2	3	3	3	-	1	-	-	1	-	1
応用の実際	-	2	3	3	3	-	1.5	-	1.5	-	-	1
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方処方集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方医学	2	2	3	3	3	-	0.5	-	0.5	-	-	1
精撰百八方	2	2	3	3	-	3	1	-	-	-	1	1
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成人病の漢方療法	2	2	3	3	3	-	1	-	3	-	-	1

〔注1〕 慢性の経過をとっている胸部疾患で、胸部に熱が残り、咳嗽、喀痰が長びき、なかなか止まぬものに用いる。痰が多く、激しい咳が続く、しかも痰は粘稠で切れにくい。長びくと咽が痛んだり、声が嘎れたり、ムズムズしたりする。痰が出るまで激しい咳が続くことが多い。

〔注2〕 呼吸器の内部に熱をもち、慢性の炎症を起こし、痰が沢山でき、激しい咳嗽が続く、しかも痰は粘稠でなかなか切れないというのが目標である。長びくと咽喉が痛んだり、声が嘎れたり、咽がムズムズするというようになる。痰の色は黄色のことも、青いことも、白いこともあるが、粘っていてなかなか切れにくく、喀出するのに苦しむ。痰が出るまで激しい咳が続くものである。

〔注3〕 痰が多く、咳嗽が久しく止まず、ときに血痰を出し、あるいは息切れし、からだが衰弱しているもの。浅田宗伯は勿誤薬室方函でつぎのようにいっている。「此方は痰火咳嗽の薬なれども虚火（虚証で衰弱ぎみの人の、気道の炎症による咳嗽）の方に属す。もし痰火純実（実証の人の炎症）にして、脈滑数なるものは、龔氏は瓜括枳実湯を用うるなり。肺熱ありて兎角咳の長びきたるものに宜し。故に小青竜湯加石膏などを用いて効なく、労嗽をなすものに用う。方後の按に、嗽久しく止まず、労怯をなす（衰弱した）ものとあり、着眼すべし」

〔注4〕 烈しい咳嗽があり、古い痰が多くできているが、なかなか切れにくい。慢性に経過して、痰が出るまで咳嗽に苦しむ。

処方番号：126

処方名：折衝飲（せっしょういん）

処方構成：

牡丹皮 3、川芎 3、芍薬 3、桂枝 3、桃仁 4-5、当帰 4-5、延胡索 2-2.5、牛膝 2-2.5、紅花 1-1.5

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度あるいはそれ以上で、下腹部痛があるものの次の諸症

効能・効果：

月経不順、月経痛、月経困難、神経痛、腰痛、肩こり

原典：産論

出典：

解説：

桂枝茯苓丸と当帰芍薬散を合方し、利水剤の沢瀉、茯苓、白朮を去り、瘀血による疼痛を鎮める延胡索、牛膝、紅花、を加えたものである。又は桂枝茯苓丸と四物湯の合方より茯苓と地黄を去り延胡索、牛膝、紅花、を加えたものである。瘀血による腹痛を伴う症状を目標に用うるが、血行をよくし補血と滋潤を兼ね産後の母胎回復をももつ方である。